



浦和学院高等学校では、
東日本大震災以降、

何を感じ、
何を考え、
何を行動するか!!
ライフスキル教育の原点である。

未曾有の大震災の教訓を教育の中に活かすこと。

第 61 回交流活動「石巻復興きずな新聞配布」 28.09.26～29 石巻・東松島交流センター



東日本大震災から5年6ヶ月という節目に、本校の活動も60回を超え、9月26日(火)～29日(木)第61班が石巻市・東松島市を訪問した。生徒17名、教職員3名の活動目的は、「石巻復興きずな新聞」の配付である。この活動目的は、何度も紹介しているので省略するが、今回もリピーター4名が参加してくれた。

リピーターのある男子生徒(2年)は、大川小学校にて前列で献花している。この生徒、1年次には申し込みが遅れ、特例で連れて行ったことを思い出した。そんな彼とは一年前、銭湯でたくさん会話した。「僕は、こんなに恵まれていたんですね、来年もまた来ます!!」と、話してくれた彼。今年、リピーターとして申込用紙を見た時には目頭が熱くなった。



一年の月日は人を大きく成長させるものだ。当時は1年生で影が薄かった彼、芯はあるがそれを表現できなかった彼。今年は、その彼の眼からは「リーダーもできます。」との思いが伝わってきた。彼と4日間過ごし、銭湯で語り合いたかったが、私自身が体調不良でリタイアしてしまい、思いを彼に託した。何も会話は交わさなかったが、私が離団する時の彼の眼は「任せて下さい。」と、訴えていた。私が浦和に帰ってきた後も、自らを律し、目を輝かせて活動してくれていたことは写真からも伝わってくる。



さらに、嬉しかったことが二つ。最終日、新宿駅で高速バスを出迎えた時「体調大丈夫ですか、ありがとうございます。」と、何もできなかった私に感謝してくれたのだ。また、彼の感想文には「もやもやしていた進路の道筋が立ってきた。」と。このボランティアを通して、被災者の方々へ優しい気持ちで接し、さまざまな教訓を得たに違いない。

61班という区切りのスタートであるが、こんな生徒が一人でもいる限り「ライフスキル教育の浦学」を実践していかなくてはならないだろう。





